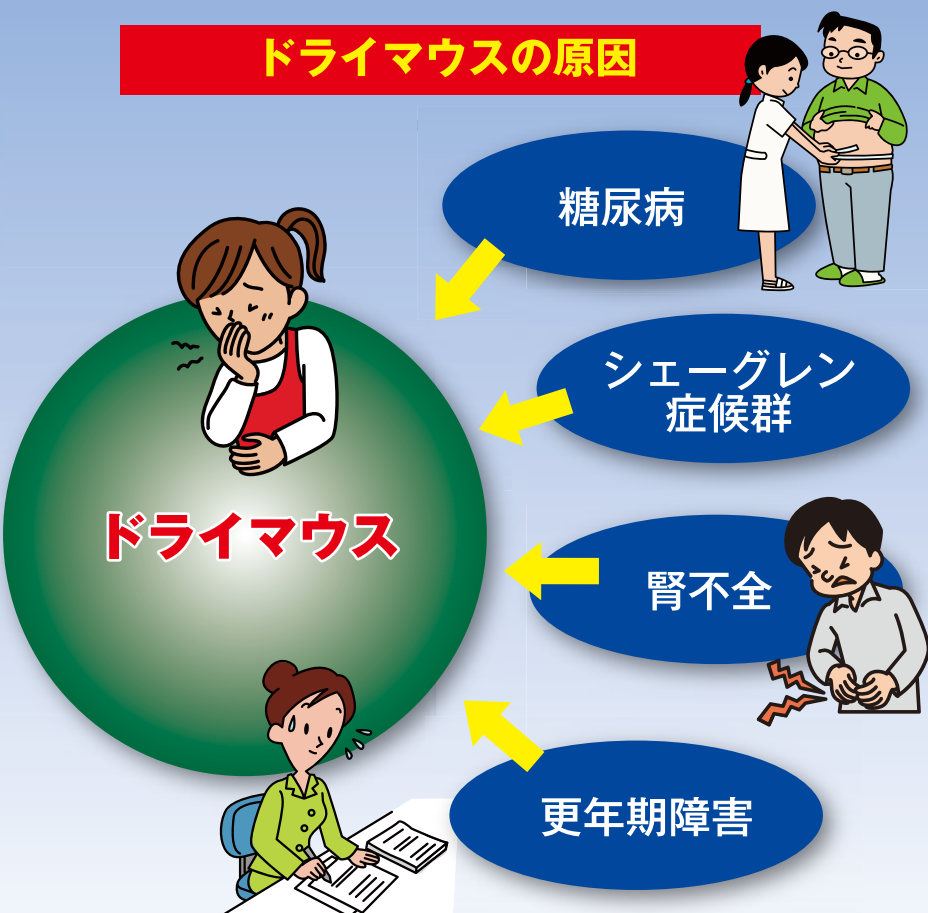


ドライマウスの原因



オーラルメディシン外来で取り扱う症状の一つ「ドライマウス」の想定される原因の相関図。「ドライマウス」は口腔内での症状ですが、その原因が全身の疾患と関連がある場合は、他の診療科の医師と連携して治療にあたるのが「オーラルメディシン」の役割です。

関根 浄治教授率いる医学部
歯科口腔外科学講座では、4年
前にオーラルメディシン外来
を開設し、2011年4月より
本格的な外来診療を始めまし
た。4年前の着任以来、関根教
授が強化推進してきたオーラ
ルメディシンという分野は、専
門の外来窓口を開くのは全国
でも数少なく、中国地方では初
となります。本来、口腔癌に代
表される、口腔内（口の中）疾患
の外科的治療が中心の歯科口
腔外科ですが、口腔内科とも呼

従来からの口腔外科に加わることで
幅広いケアを可能にする意欲的な取り組み

「口の中はいつでも自分で
確かめられるので、かえって
良く観察しないということも
あります。毎朝の歯磨きなど
の時に鏡の前で口の中を良
く見て、早めに異常を見つけ
ることが病気の早期発見に
繋がります」（関根教授）。



医学部歯科口腔外科学講座教授
関根 浄治

研究 事業 紹介

introduction

医学部

すべての医療とかわる新たなフィールド オーラルメディシン外来の診療がスタート

医学部歯科口腔外科で4年前に開設した「オーラルメディシン」が2011年4月より本格稼働となりました。オーラルメディシンとは、口の中の異常や口の中に
症状を及ぼす全身疾患について診断や治療をおこなうもの。チームを統括する、医学部歯科口腔外科学講座の関根 浄治教授に詳しいお話をお聞きました。

口から全身の病気がわかる例



舌の痛みにより来院なされた2例。左は貧血により、赤く平滑(つるつる)になった状態の写真。右は胃食道逆流症で胃酸が口内に逆流し、舌が荒れ溝状舌(しわしわ)を呈した状態。このように口の中には全身のご病気に関わる様々な症状が現れます。

歯科フィールドだけでは オーラルメディシンの役割

ばれるオーラルメディシンを強化することで、予防改善を含めた、今まで以上に幅の広い医療が可能になりました。

オーラルメディシン外来で扱うのは、「全身と関連した疾患」「唾液量の低下などで口の中が乾くドライマウス」「現代病とも関連の深い、口の中の原因不明の痛みや違和感(歯科心身症)」「骨粗鬆症等の治療に用いるビスフォスフォネート製剤関連の顎骨壊死」「疾患の予防改善を目的とした口腔ケア」など多岐にわたります。

特に高齢者の多い島根県で



は、薬の副作用や心身的な悩みからドライマウス等の症状が現れることもあります。また、こうした症状が全身疾患と関わる場合もあるため、異常のサインを口の中からどれだけ見つけられるかが重要になります。

県内を網羅するオーラルメディシン外来 地域との連携でさらに大きな取り組みに

県内16箇所の関連施設(病院)のうち、現在、県西部の益田赤十字病院、国立病院機構浜田医療センターでは、本年度よりチームに加わった、オーラルメディシンのエキスパート、上野 蘭美 医長によるオーラルメディシン外来を開設。医学部附属病院での診療と同じクオリティのケアを可能にするための取り組みを行っています。

「口腔外科だけでなく、すべての医療とかかわるのがオーラルメディシン。メンタルケア、口腔ケアを含めて、フィールドはまだまだ広がっていきます。今後は地域の先生方との連携も含めた大きな取り組みにしていきたい

い(関根教授)。
極めて重要な役割を担った
オーラルメディシン。今後の取
組みに注目です。

取材当日には、オーラルメディシン外来を担当する上野 蘭美 医長も、詳細な説明をしてくださいました。初診日は火・木曜の午前中で、かかりつけ医の紹介状が必要です。医学部歯科口腔外科学講座のホームページでも情報を閲覧いただけます。



医学部附属病院歯科口腔外科
オーラルメディシン医長

上野 蘭美